

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和 7 年度 技術情報第 15 号（果樹カメムシ類の発生）について（送付）

果樹カメムシ類の発生について、下記のとおり取りまとめましたので、周知およびご指導をよろしくお願いいたします。

なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ（<https://www.pref.kagoshima.jp/ag13/kiad/boujoshou/index.html>）にも掲載しています。



令和 7 年度 技術情報第 15 号

8 月下旬以降、県内 4 地域の予察灯で、チャバネアオカメムシの誘殺虫数が平年並みに増加しています。果樹園をよく見回り、園内への飛来を見落とさないように初期防除に努めて下さい。

1 対象病害虫 果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ，ツヤアオカメムシ）

2 対象作物 果樹全般

3 発生状況及び情報の根拠

- 予察灯における果樹カメムシ類の誘殺虫数は、4 月以降、平年より低く推移したが、8 月下旬から県内 4 地域全ての予察灯（南さつま市，いちき串木野市，出水市，鹿屋市）でチャバネアオカメムシが平年並みに増加している（図 1）。なお、ツヤアオカメムシは少ない状況が継続している。
- 7～8 月のヒノキ球果の口針鞘数（吸汁痕数）は、平年より少なく推移しているものの、8 月 15～18 日に各地で増加している（表 1）。
- ヒノキ球果（餌植物）から離脱する口針鞘数の目安は 25 本/果であり、一部の地域では最大口針鞘数が 24 本/果に達しており、山林から離脱している可能性がある

4 防除上注意すべき事項

- 果実が吸汁被害を受けると落果や果実品質の低下を招くため、こまめに園内外を見回り飛来を認めたら直ちに防除する。
- カメムシ類は夜行性であるため防除は早朝か夕方に実施し、農薬の使用回数や使用時期など、使用基準を遵守する。
- 防除薬剤は、比較的残効の長いネオニコチノイド系薬剤または合成ピレスロイド系薬剤を選択する。なお、合成ピレスロイド系薬剤は、ハダニ類が急激に増加することがあるので、散布後はハダニ類の発生に注意する。

5 参考データ

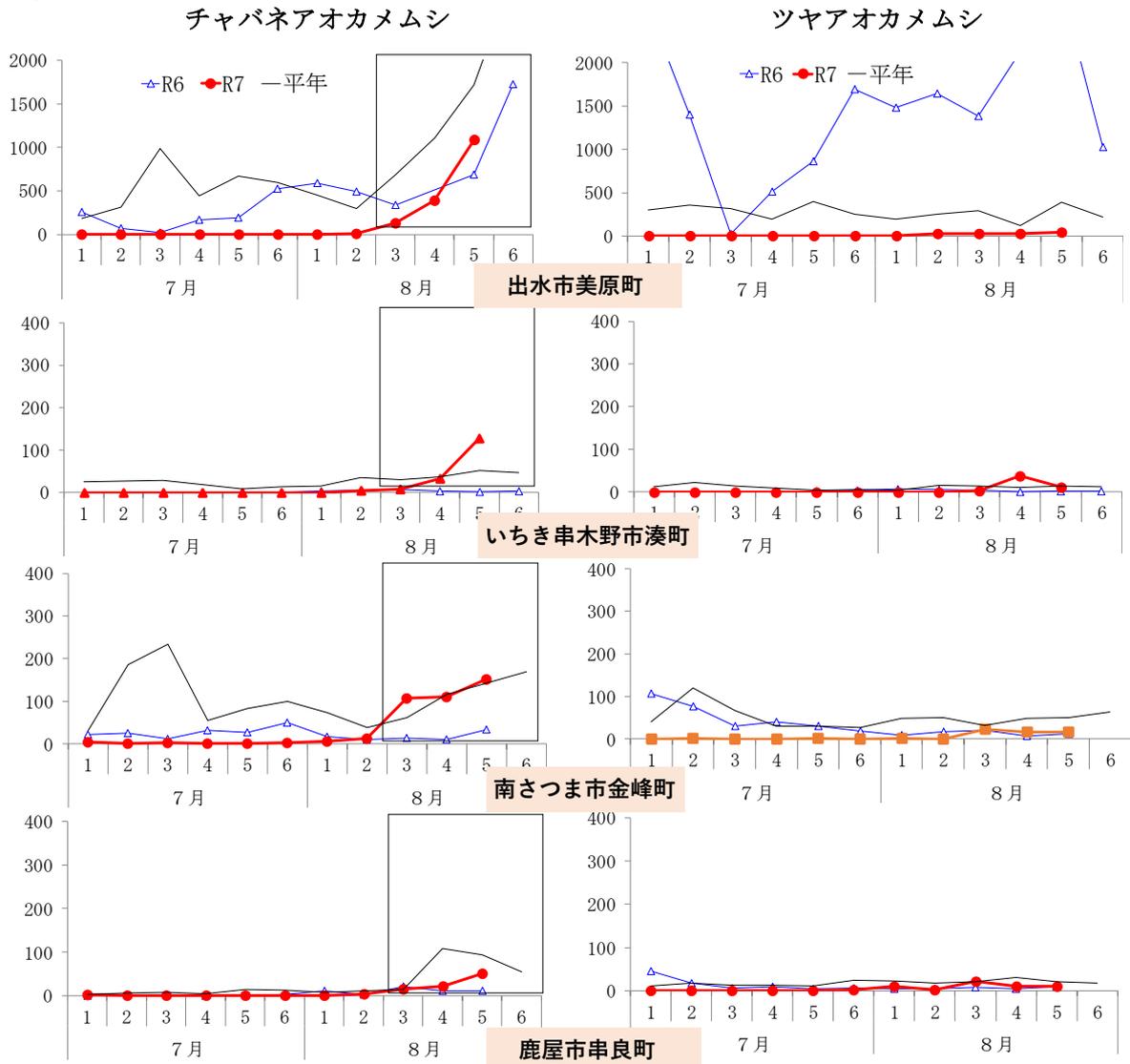


図1 予察灯における果樹カメムシ類の誘殺虫数の推移

- 注1) 平年は2015年～2024年の10年間の平均値
- 注2) 予察灯の光源は、南さつま市金峰町は水銀灯100W、鹿屋市串良町は捕虫灯20W、他は捕虫灯40W
- 注3) グラフの縦軸は半旬毎の誘殺虫数

表1 ヒノキ球果の口針鞘数（カメムシ類の吸汁痕数）（単位：本/果）

調査地点	地点数	調査月日			
		7/1～7/8	7/25～7/30	8/1～8/6	8/15～8/18
南さつま市	1	0.0	0.0	0.5	3.3(10) [※]
いちき串木野市	1	0.0	2.1	0.2	10.8(23)
日置市	1	0.1	0.5	5.7	5.4(13)
阿久根市	1	0.0	0.1	4.3	6.2(20)
出水市	1	0.1	1.3	2.2	6.1(24)
さつま町	1	0.0	0.5	2.8	7.8(21)
霧島市	2	0.0	0.5	0.9	2.5(7)
曾於市	2	0.1	0.2	2.2	2.9(13)
本年平均	10	0.0	0.6	2.2	5.0
前年平均	8	1.0	4.0	8.5	13.0
平年平均	8	0.4	2.5	6.3	10.0

- 注1) 平年は2015年～2024年の10年間の平均。表中の()[※]は口針鞘数の最大値を示す
- 注2) カメムシがヒノキ球果から離脱する目安は口針鞘数25/果
- 注3) 調査球果数：20個/地点